



「大学史展示室」リニューアルで式典

愛知大学が、創立100周年を記念して、大学史展示室をリニューアルし、4月20日(金曜日)に式典を開催した。



愛大の歴史を広く紹介

記念セレモニー盛大に 武田学長らテープカット

豊橋校舎で実施

愛知大学が、創立100周年を記念して、大学史展示室をリニューアルし、4月20日(金曜日)に式典を開催した。式典は、豊橋校舎で行われ、武田学長らテープカットを行った。式典には、武田学長、副学長、理事、教授、学生、教職員、関係者など約100人が参加した。武田学長は、式辞の中で、愛知大学の歴史を振り返り、今後の発展を期すことを誓った。式典後、大学史展示室のリニューアル展示が始まる。



テープカットする武田学長ら＝愛知大学記念館前で



東日新聞(愛知版) 4月20日(金) ⑭



かつての愛知大学を今に伝える資料が並ぶ

大学史展示室

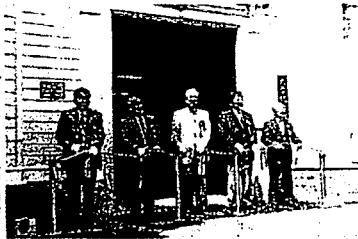
リニューアルで記念式典

愛大 今後は資料の拡充図る

愛知大学が、創立100周年を記念して、大学史展示室をリニューアルし、4月20日(金曜日)に式典を開催した。式典は、豊橋校舎で行われ、武田学長らテープカットを行った。式典には、武田学長、副学長、理事、教授、学生、教職員、関係者など約100人が参加した。武田学長は、式辞の中で、愛知大学の歴史を振り返り、今後の発展を期すことを誓った。式典後、大学史展示室のリニューアル展示が始まる。

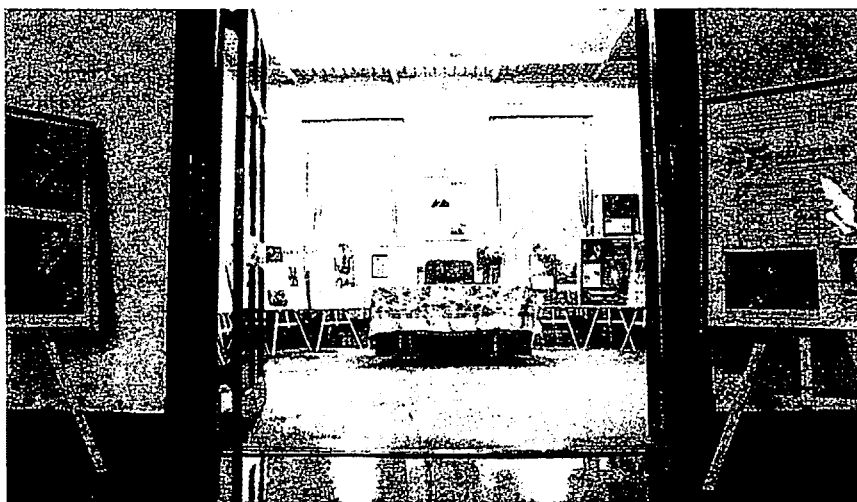
愛大「大学史展示室」リニューアル

愛知大学（武田島原キャンパス）の歴史を伝える「大学史展示室」が、4月19日にリニューアルオープンした。展示室は、愛大の歴史を伝えるだけでなく、愛大の未来を展望する役割も果たしている。展示室は、愛大の歴史を伝えるだけでなく、愛大の未来を展望する役割も果たしている。展示室は、愛大の歴史を伝えるだけでなく、愛大の未来を展望する役割も果たしている。



19日行われた記念セレモニー、テープカット

時代ごとの「空気」を感じる史料並ぶ



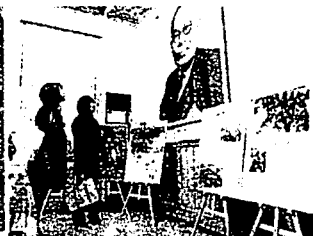
2階・旧学長室



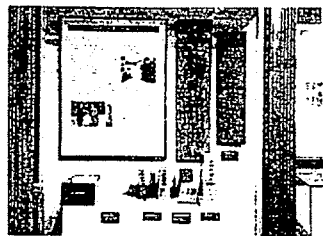
1階・展示室（愛師所遺囑事故関係資料）



応援団のエールを受ける



2階・展示室



「中日大辞典」と編集（さん）事業の足跡



東亜同文書院大学（上海）



学生寮を再現

愛知大学東亜同文書院大学記念センター
大学史展示室リニューアルオープン

〒441-8522 豊橋市町畑町1-1 電話(0532)47-4139 FAX(0532)47-4196
(グループ・団体でお越しの方は、事前に同センターまでご連絡くださるようお願いいたします)

2007年(平成19年)4月29日(日曜日)

法学者としての業績紹介

愛大前学長の
石井吉也氏 本間喜一さんを語る



本間喜一氏の樂綫を語る石井氏
 〓愛知大学博物館會で

Abstract

愛知大学東洋文庫文書院 大学記念セナターは28 日、同大傳習館法学研究 館で公開講座を開き、前 学長・石井清臣氏が、大 学創立者の一人で、第2 、第4代学長・本間喜一氏 の法学者としての業績を 勢語した。	本間氏は東大法学部か ら東京地裁の判事、東京 高大（一橋大）教授を経 て946（昭和21）年 1月に愛大法経學部と同
大学院研究科の教授に就 任。以来、第2、第4代 学長を務めたほか、43年 間にわたる研究・教育に 全精力を傾けた。	生をさされた姿を、 敬愛の念をもつて振り返
出身で、本間氏が「民法 の慈雨を受け、法解釈に ついては時に激論を交わ す調だった。 <p>講演で石井氏は、本間 氏が商法の大空下でな く、法哲学の研究に半 身をかけた姿を、</p>	敬愛の念をもつて振り返
「自分は十全な判決を下 せたらどうかと悩む。そ の悩みに解決の道を開く うとしたのが動機だっ た」と解説。「本間氏は 人間の理性に全幅の信頼 を置いた人間だった」 と、本間氏のヒューマニ ストの本質を明らかにし た。	（高石国良）

(高石四良)

石井吉也元愛知大学長の講義と大学史展

愛知大学東亜同文書院大学記念 越知 専
センター客員研究員・評定委員

寄稿

愛知大学の公開講座
「愛知大学の創立者 本
間喜一―法学者としての
軌跡」が4月28日（土）、

愛知大学豊橋キャンパス
の研究館第1・2号会議室
で開かれた。

講師は元愛知大学学長の
石井吉也氏。教職員や
一般市民など含め約30人
が2時間の講義と30分余

の質疑応答を行った。
愛知大学の学長を満了してから10年近くなる。教壇に立って義は5年ぶりという。本間喜一元学長(まな ぎ 一 げん) 弟子と言われ

裁判官としての苦悩のエピソード、東郷大教授時代の「法とは社会が正義の表現のためにつくった法則」であり「法の目的は正義に統一」という本人としての考えを語られる。関先生のこうした考えを

石井氏は、愛知大学学生 披露した。
時代からの学問、商法学 また、本間先生の憂大
を本間先生から学んだと 事件で衆議院の行政監察
説は愛護者をうなずかせ

公開講座や史料展示室新設

愛知大学の歩みPR

いい、「人生そのものの
先生でもあった」と懐述
する。

の考へ方が根底に随所に
うかがわれるのである。昨年、

鶴翁は、史佐科大学
生時代の本間先生や、三
淵忠彦氏（初め松尾親長
）との出会いを語った
あと、法蘭西字頭で「荷
爾遜先生の個性性」や
「セナー」に関する私立
大学東邦国文館大学記
事集、オプンリーチャー
セナー「整頓事業」など

て行われているものであつて、學術研究並と同時には、愛知大学創成期の群像の写本、バネル庚のおよび同フットレットの出版など、広く多く紹介してある事業である。

愛知大学図書館蔵書「シタフアンチヤ」をめぐつてはどうか、この土地の過去への声、この土地の子どもたちが、幼稚園や小学校の生徒が、地域ボランティアの先生の手で、聞きかたき、愛知

大学構内を散策している
姿も時々見られる
ナンジャモンジャの本
や豊橋市花つつじも、
満開だ。愛知大学も観光
ルートの一つにあげられ
つつあるようだ。
詳しい問い合わせは
電話05332(47)4111
まで。



新設された展示室

故・本間愛大名譽学長 愛用の品々

長女の殿岡晟子さん寄贈

本間喜一愛知大学名誉学長の長女・殿岡晟子さんが、このたび、父上の愛用の品数点を愛知大学東亜同文書院大学オーブンリーセンター(藤田佳久セクター長)に寄贈された。

これは愛知大学史展示室(4月19日オープン)の完成をかねて、本間喜一先生にゆかりのある品を展示したいとするセンター側の希望によるものである。



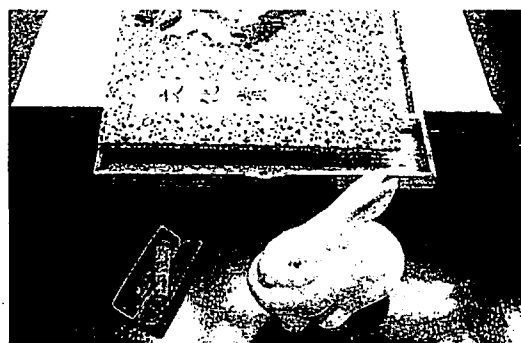
越知 専

まず、古くは東京城裁判権争の時代から東京商大教授(一橋大学名誉教授)時代、上海の東亜同文書院大学時代、戦後は愛知大学設立や初代の最高裁判所事務総長時代、そして愛知大学の創設にもかかわるすべての書類(募金集めの時も)に押された安印(11×10.7×1.1センチ)が、本品の細長い大型印鑑がケースと共に、藤田セクター長に手渡された。

また、先生が昭和30年代から常時使用していたハンカチも手渡された。これは、法政大学時代の教えず、法学者・兄正勝氏(全国員海苔漁業組合顧問并藤田)からプレゼントした「からプレゼント」

注目された「文化賞」

本間先生愛用の安印と安田財閥から贈られたウサギの置物、「豊橋文化賞」



豊橋を文化的に躍進させたのは愛知大学の本間喜一氏ということだ。

で、この「文化賞」は先生が豊橋の市民から敬愛されていた証と見えるだろう。

この愛蔵のときの喜びを本間先生は「こういつた褒賞は、できる

好協会会長の孫平化氏が本間喜一先生の御病氣をお見舞いに来日し、先生のために持参した「名高北斗 寿比南山」と描定(きこ)された書は大学展示室に飾られている。

そうした本間喜一先生のゆかりある貴重な諸資料がいずれ「本間喜一コーナー」としてまとめ、生い立ちから法学者を目指した時代、判事検事の時代、東京商大(一橋大学)教授時代、東亜同文書院大学長時代、愛知大学創立から二代、四代の学長時代など各時代に分類整理されて展示される計画も進められている。

「愛知大学東亜同文書院センターの問い合わせは、電話0532・47・4111。愛知大学東亜同文書院大学記念センター客員研究員・運営委員」

2007年(平成19年)6月10日(日曜日)

【10】

東 愛 大 学 新 聞

元学長が建学精神など紹介

愛大東亜同文書院大学記念センター

牧野氏迎え豊橋校舎で講演会

東亜同文書院大学と私

講師 牧野由朗氏



豊橋大と愛大の関係について語る牧野氏。豊橋校舎で。

愛知大学東亜同文書院大学記念センターは9日、愛大豊橋校舎で講演会を開き、元愛大元学長の牧野由朗氏が「愛知大学と東亜同文書院大学と必要なる資格の一文が」と題して、中日大辞典

あることについて、「中国上海にあった豊橋大の教授がいたからこそ戦後すぐにつくられた愛大の設立趣意書の中で盛り込まれた言葉、海外にいた経験が生かされている」と解説。

中日大辞典については「中国の大学に向き愛大の紹介をするときに中日大辞典を編纂(さん)した大学です」と相手の態度が一変するほどとし、「書院大が辞典の編纂を始めたから、愛大が引き継いで行っている」と述べた。

(竹下典信)

愛大と東亜同文書院大学を演題に

9日に牧野元学長が講演

愛知大学東亜同文書院大学記念センターは9日午後1時から3時半まで、愛大豊橋校舎研究館で講演会を開く。牧野由朗・元愛大元学長が「愛知大学と東亜同文書院大学と必要なる資格の一文が」と題して、豊橋大と愛大の関係について語る。

講演会には、豊橋校舎研究館で講演会を開く。牧野由朗・元愛大元学長が「愛知大学と東亜同文書院大学と必要なる資格の一文が」と題して、豊橋大と愛大の関係について語る。

いて詳しい。

入場無料、申し込み不要。問い合わせは同記念センター(0532・47・4139)へ。

(竹下典信)

東亜同文書院の略

講師は愛大元学長の牧野由朗氏

愛知大学東亜同文書院大学記念センターは、9日午後1時30分から豊橋市市町町の同大学豊橋校舎研究館1階第1、2会議室で公開講演会を開く。入場無料。

「愛知大学と東亜同文書院大学と私」と題し、自身が高学大在学中、東亜同文書院大学や京成大学出身の教員に教えを受けた思い出や、学長として中国との学術教育交流に尽力した経験などを講演する。

問い合わせは、愛知大学東亜同文書院大学記念センター(電話0532・47・4139)へ。



寄稿

今泉 潤太郎

今から120年も前になる。福澤諭吉は自分の経営する「時事新報」に社説を書いた。明治初年の日朝修好条約締結以来、朝鮮、満洲との連帯を強め、両国の近代化を図ろうとする動きは、壬午軍乱(大院君の反乱)から甲申事変(金玉均のクーデター)にかけて急速に衰退し、これまでの友好ムードが敵対ムードに一変した。

鮮改革派に対する支援も失敗したことへの挫折感と憤激の念の発露ともみられるこの社説は、甲申事変の翌年明治18年3月16日に発表された。近代化への努力を怠る国

「対清非妥を發表し、戦勝を目前にして辱を立つ世論に對し、兩國への賠償金と領土の分割を要求すべきでない」との考えを公開した。

諭吉より25歳下の荒尾精は愛知県の出身で、陸軍教導団を出た後、参謀本部に勤務した優秀な軍人である。西宮文相をいち早く取り込み、アジアにおいて唯一旧服を脱した明治の日本は、新國家形成の途程で、一種の感奮主義的な愚癡に包まれていた。この中には國權と民権、あるいは欧化と國權という対立軸をもつ風潮が出てくる。この構図は今も変わらぬようだ。

時代を先駆けた荒尾精



「主義とする所はた脱亜の二字に在るのみ」「我國は諸國の開明を待たず共に並進を期するの類であるべからず」「隣國なるが故にて特別の会釈に及ばず、まさに西洋人がこれに接するの風に従て処分すべきのみ」「我は心にして亜細亞東方の盟友を擁護するものなり」。諭吉個人の胡

は、欧米列強によって分割されても止むを得ない。日本も欧米とともに東洋シヤの分割に加わるべきだとする議論、のちの「脱亜論」にひき継がれる内容がこの社説がもつては否定できない。

この10年後ついに日清戦争が始まることになる。その頃、荒尾精は対仙臺を。瀋陽・漢口にも年捕在した折の朝鮮復讐は参謀総長も激賞した内容である。とりわけ日本の今後はとして雄飛、發展すること

と共々、瀋陽の物語を扱う商會でもあり、研究所が出版した「瀋陽」の編集者(荒尾)になる。瀋陽通商條約は高度な学術的価値をもつすぐれたテキストでもある。時代を先駆けした天才故か、日清貿易研究所は数年間で解散するが、明治34年、東亜同文書院(根津一院長)(愛知大学・中日大蔵典編纂主幹)

講師の村上武氏氏は、「東方新書館先生遺作復刻」や、「増補巨入荒尾精―村上武氏、村上武氏」の出版を個人の力でなし、荒尾精に対する敬意は並々ならぬものがある。

「学問のすすめ」「脱亜論」と荒尾精先生の思想と題する講演は、ききといて、大いに傾聴に値するものと思ふ。

愛知大学東亜同文書院大学記念センターは30日午後一時半から、愛大豊橋校舎研究館で公開講演会を行う。講師は東亜同文書院の村上武氏。村上氏が「学問のすすめ」「脱亜論」と荒尾精先生の思想」を講演する。購読自由。入場無料。

村上武氏が公開講演会

30日、愛大豊橋校舎

村上氏は父・徳太郎が1931(昭和6)年に創立した東光醫院の院長を70年に受け継ぎ、現在、同醫院機関紙「回光」の編集・発行者も務めている。

講演では「東亜同文書院の学統の基盤は荒尾の精神によつてゐる」としつつ、この荒尾の思想を福澤諭吉との対比で解説する。(荒尾のフイルについては今泉氏の寄稿を参照)

(本多恵)



スライドで愛知大学の歴史を上映

陶芸家の古橋尚さんが12日、愛知大学豊橋校舎大学記念館で「愛知大学創成期と東亜同文書院継承の映像とナレーション」と題してスライド上映会を行った。

古橋さんは、陶芸のかたわら伝統文化や人物の研究をしている。昨年愛大で開かれた「愛知大学・創成期の群像―写真パネル展」を見た際、スライド化を思い立ち、展示会を主催した東亜同文書院大学記念センターの越知孝さんに提案して今回の上映会が実現した。

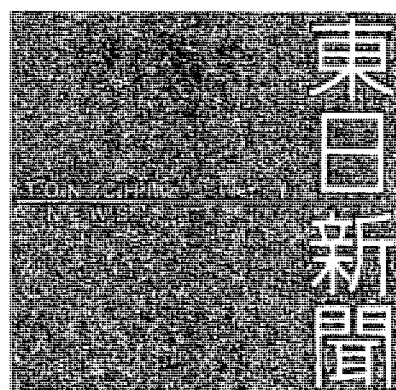
今では約20人の参加者を前に、愛大の前身である東亜同文書院大学の設立の経緯から歴史をたどった。かつて手紙にあったものの校舎の写真などをスライドで映しながら

東亜同文書院から愛大へ

継承の歴史スライド化

陶芸家の古橋尚氏

ら、日本人が外国に設立した最初の学校であることや、敗戦で中国から引き揚げることになったとき、教師が命がけで学庫荷と成績簿を持ち帰ったエピソードなどが紹介された。



地域を笑顔に

愛大の歴史をスライドで上映

陶芸家の古橋尚さんが12日、愛知大学豊橋校舎大学記念館で「愛知大学創成期と東亜同文書院継承の映像とナレーション」と題してスライド上映会を行った。

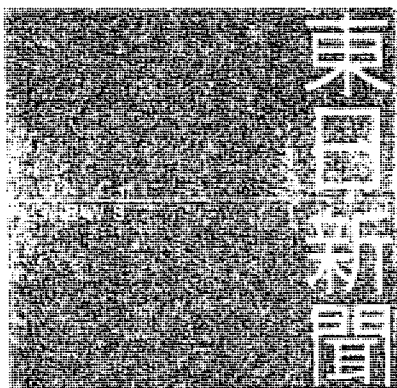
「豊橋美術展」始まる

豊橋市美術館1階で12日、「第29回豊橋美術展」が始まった。



東日新聞 2007年(平成19年) 6月15日(金)

④



地域を笑顔に

発行所／東海日日新聞社 TEL0532-53-2300
〒410-0874 FAX0532-53-7222
愛知県豊橋市東松山町90番地 http://www.tonichi.net

資料の展示方法など助言

豊橋市美術博物館の金原宏行館長と後藤清司副館長が14日、愛知大学東亜同文書院大学記念センターを訪れ、資料の展示方法などについて助言を行った。



17日から沖縄県石垣市へ

島崎藤村の詩「椰子(やし)の実」を再現する田原市の観光イベント「愛のココナッツメッセ」PART20で、市観光協会(会長・鈴木克幸市長)は17日から19日まで、やしの実を海に流すため「遊き島」に見立てた沖縄県石垣市を訪れる。

東亜同文書院
記念センター

愛大の宝より広く市民に

豊橋市美博の館長らに展示法聞く



越知研究員らの説明を聞く金原館長と後藤副館長

豊橋市美術博物館の金原宏行館長と後藤清司副館長が14日、愛知大学東亜同文書院大学記念センターを訪れ、資料の展示方法などについて助言を行った。同センターは平成10年から大学史展示室を開設し、大学関連の資料の常設展示を行っている。今回は記念センター客員研究員

の越知厚さんの呼びかけで、より展示の質の高めるために専門家の意見を聞くこととなった。越知さんは最近、展示室を訪れる市民が増えてきていることに触れた上で「今までは愛大の宝を眠らせていた。今後はこちらの方々に、地域の大学に貴重な文化財があることを知ってもらいたい」と話した。

また、同席した同大名誉教授で50年史編集委員も務めた大島隆雄さんは「展示の内容を充実させ、学芸員など人材も育成していくことが必要。将来的には大学の総合博物館を目指したい」と構想を語った。

会見の後、一行は学芸員のガイドで大学史展示室を見学して回った。金

豊橋市美術博物館館長・副館長、
本学の歴史展示をご見学

東亜同文書院大学記念センター
佃 隆一郎

6月14日午前、豊橋市美術博物館の金原宏行館長および、後藤清司副館長のご両名が、本学豊橋校舎の東亜同文書院大学記念センターを訪問された。同センターは大学記念館内の「大学史展示室」の移転、整備をこの4月に実施したが、さらに既設の「東亜同文書院大学展示室」のリニューアルと大学史展示室の二期整備を進めるために、またセンターの「友の会」を立ち上げる構想を具体化させるために、実績をあげている同博物館のご意見をうかがうべく招いたものであり、ご両名は東亜同文書院を含めた本学の歴史に関する諸展示を、興味深くご覧になって下さった。

私は大学史展示室の案内を担当したが、学生・卒業生・学外の人と、それぞれに応じた説明が要求される難しさを改めて痛感した。展示案内の前に行なった意見交換では、センター委員より「本学に総合博物館を将来作りたい」との声もあり、私も同感だが、それまでには資料保管の徹底、各部署で行なっている展示活動の共同化など、取り組むべき課題はたくさんあろう。一歩ずつ進めていくためにも、この場を借りて皆様のご意見・ご理解・ご協力をお願いしたい。

友の会立ち上げへ意見交換

寄稿 武井 義和

去る14日前、金原宏行豊橋美術博物館長と後藤清司副館長の2名が、東亜同文書院大学記念センターの招きに応じて愛知大学記念館を訪問し、同館内の東亜同文書院大学記念センター展示室を見学した。

愛知大学同文書院
大学記念センター

豊橋美術
館長ら招く

中国革命の父・孫文や愛知大学の歴史に関する資料が展示されている同記念センターでは今後、友の会を立ち上げる計画をもっており、豊橋美術博物館長や副館長のご意見を伺うことを目的としたものである。

友の会のあり方について、30分近く館長らの話を聞き、意見交換したあと、館長と副館長は展示

室を見学し、係員の説明を熱心に聞いた。所蔵資料の保管のあり方の問題や展示されている原典資料の劣化をいかに防ぐかという保存の問題、そして参観者の視点から見やすい展示方法などについてさまざまな意見が出された。

係員や学内関係者は今後の活動に生かそうと、館長・副館長から出される意見を、丹念にメモに取っていた。

(愛知大学東亜同文書院大学記念センターホスト・ドクター)



越知専記念センター客員研究員(中央)の説明を聞く金原館長(左)と後藤副館長。後ろは大島隆雄記念センター客員研究員



東亜同文書院

日中で歴史検証

中国側研究者招きシンポ

きょう
愛知大で

東亜同文書院が借用していたころの上海交通大学

しかし、日中戦争の中で、卒業生が日本軍の通訳となつたことなどから「スパイ養成学校」と酷評された。第2次上海事変(37年)で校舎を焼失し、当時は「空襲家」だった隣接の上海交通大学

か、孫文の中国革命に投じる者も出た。

中国国内の調査旅行を実施して貴重な資料を残したほ

う、戦前の中国・上海に設立

された東亜同文書院の歴史的な位置付けについて、中国側研究

者を交えた初のシンポジウムが28日、同校を前身とする愛知大

学の豊橋校舎記念会館(愛知県豊橋市)で開催される。同校は

戦後、「スパイ養成学校」などとして、中国側から、敵

視される時代が続いたが、最近ようやく中国研究や日中友好

に果たした役割に、客観的な評価が始まったといふ。

シンポには、上海交通大学

学を中心とする中国側研究

者6人と、藤田佳久・愛知

大教授ら日本側5人が参加

する。東亜同文書院は19

01年、日中貿易の実務者

を育成しようと上海に設立

され、敗戦で閉校した。軍

閥割拠の時代を含め、毎年

中国国内の調査旅行を実施

して貴重な資料を残したほ

愛知

読者

新聞

第1版

2007年(平成19年)7月29日(日曜日)



シンポジウムには大勢の市民も参加

戦前、中国・上海に設立された東亜同文書院の果たした歴史的な役割などについて考える初の国際シンポジウムが28日、豊橋市町畑の愛知大学豊橋校舎記念会館で開かれ、約200人の市民らが参加した。

「東亜同文書院」役割考える

愛知大学豊橋校舎でシンポ

東亜同文書院は同大の母

体になった日本初の海外高

等教育機関。1901年の

設立から45年の終戦で閉鎖

されるまでに、約5000

人の卒業生を輩出。日中の

経済、文化的な交流に大き

な役割を果たした。

シンポでは、戦前から東亜同文書院と深いつながりがあった上海交通大学など中国側研究者6人と同大の日本人研究者5人が「東亜同文書院と中国研究」などのテーマで講演した。研究者らの評価が高かったと指摘。さらに、「戦前という不幸な時代もあったが、新世紀にふさわしいを防げ、地理、経済、政治、アジア振興の協力関係を構

シンポでは、戦前から東亜同文書院と深いつながりがあった上海交通大学など中国側研究者6人と同大の日本人研究者5人が「東亜同文書院と中国研究」などのテーマで講演した。研究者らの評価が高かったと指摘。さらに、「戦前という不幸な時代もあったが、新世紀にふさわしいを防げ、地理、経済、政治、アジア振興の協力関係を構

12版広域 2007年(平成19年)7月18日(水曜日)

愛知大学東亜同文書院大学記念センター
国際シンポジウム日中研究者による
東亜同文書院研究

7月28日(土) 10時~17時

●定員200名(先着・定員になり次第締め切り)
愛知大学豊橋校舎記念会館

■パネリスト(下記他8名)

藤田佳久教授

(愛知大学大学院長・東亜同文書院大学記念センター長)

「東亜同文書院と中国研究」

薛智良教授(上海師範大学歴史学部主任)

「歴史から経緯と教訓を得る」

申込み・お問合せ

愛知大学東亜同文書院大学記念センター

〒441-8522 愛知県豊橋市町畑1-1

メールアドレス: tochieng@ml.aichi-u.ac.jp

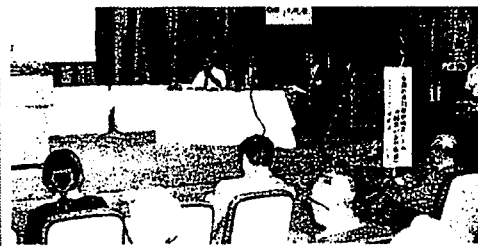
TEL:0532-47-4139 FAX:0532-47-4186

東日新聞 2007年(平成19年) 7月28日(土) (4)

(3) 7月29日(日) 2007年(平成19年) 東日新聞

スポーツ・教育・文化

新たな日中交流へ



中日共同研究について語る座・上海交通大学教授(座長・中東) 愛知大学で

愛大で東亜同文書院シンポ

中国から研究者6人

愛知大学東亜同文書院は、東亜同文書院のシンポジウム「中国から研究者6人」を開催した。シンポジウムは、東亜同文書院のシンポジウム「中国から研究者6人」を開催した。シンポジウムは、東亜同文書院のシンポジウム「中国から研究者6人」を開催した。

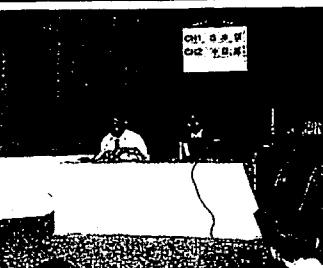
書院通じ日中関係考える

愛大でシンポ

日中で東亜同文書院研究

愛知大学東亜同文書院は、東亜同文書院のシンポジウム「中国から研究者6人」を開催した。シンポジウムは、東亜同文書院のシンポジウム「中国から研究者6人」を開催した。

2007年(平成19年) 7月29日(日曜日)



愛知大学東亜同文書院は、東亜同文書院のシンポジウム「中国から研究者6人」を開催した。シンポジウムは、東亜同文書院のシンポジウム「中国から研究者6人」を開催した。

2007年(平成19年) 7月27日(金曜日)

愛知大学東亜同文書院は、東亜同文書院のシンポジウム「中国から研究者6人」を開催した。シンポジウムは、東亜同文書院のシンポジウム「中国から研究者6人」を開催した。

年	月	日	新聞名	朝・夕	ページ
07	6	26	中日	朝・夕	13

愛知大学東亜同文書院は、東亜同文書院のシンポジウム「中国から研究者6人」を開催した。シンポジウムは、東亜同文書院のシンポジウム「中国から研究者6人」を開催した。

07	7	20	中日	朝・夕	10
----	---	----	----	-----	----

愛知大学東亜同文書院は、東亜同文書院のシンポジウム「中国から研究者6人」を開催した。シンポジウムは、東亜同文書院のシンポジウム「中国から研究者6人」を開催した。

東亜同文書院研究 戦後日本初の国際シンポ



愛知大学に日中研究学者が集う

戦後日本では初めて、上海の東亜同文書院をテーマに研究する中国と日本の学者によるシンポジウムが愛知大学・武田信子ホールで開催された。

この日は、愛知大学東亜同文書院大学記念センター・藤田佳久（とうでん けんきゅう）が、東亜同文書院の創立と戦後研究の現状について、中国の研究者に話を聞いた。

また午後5時から6時半までは、愛知大学東亜同文書院大学記念センター・藤田佳久が、東亜同文書院の創立と戦後研究の現状について、中国の研究者に話を聞いた。

この日は、愛知大学東亜同文書院大学記念センター・藤田佳久が、東亜同文書院の創立と戦後研究の現状について、中国の研究者に話を聞いた。

“知の競演”友好ムードも華添える



シンポジウムで同時通訳を担当した方々

日中研究者による東亜同文書院研究

- 第1部
1. 東亜同文書院
（上海交通大學中国史系教授）
「中日の東亜同文書院研究による両国間の友好促進」
2. 藤田佳久教授
（愛知大学東亜同文書院大学記念センター長）
「東亜同文書院と中国研究」
3. 藤田佳久教授
（上海師範大学歴史系教授）
「歴史から見た東亜同文書院」
4. 藤田佳久教授
（愛知大学東亜同文書院大学記念センター長）
「東亜同文書院関係者の中国革命運動」
5. 藤田佳久教授
（愛知大学東亜同文書院大学記念センター長）
「東亜同文書院と中国革命運動」
6. 藤田佳久教授
（愛知大学東亜同文書院大学記念センター長）
「東亜同文書院と中国革命運動」
7. 藤田佳久教授
（愛知大学東亜同文書院大学記念センター長）
「東亜同文書院と中国革命運動」
8. 藤田佳久教授
（愛知大学東亜同文書院大学記念センター長）
「東亜同文書院と中国革命運動」
9. 藤田佳久教授
（愛知大学東亜同文書院大学記念センター長）
「東亜同文書院と中国革命運動」
10. 藤田佳久教授
（愛知大学東亜同文書院大学記念センター長）
「東亜同文書院と中国革命運動」

◎シンポジウムを終えて

シンポジウムは、午前10時から午後5時まで、愛知大学東亜同文書院大学記念センターで開催された。中国と日本の研究者が、東亜同文書院の創立と戦後研究の現状について、活発な議論を交わした。

また、午後5時から6時半までは、愛知大学東亜同文書院大学記念センターで開催された。中国と日本の研究者が、東亜同文書院の創立と戦後研究の現状について、活発な議論を交わした。

愛知大学
AICHI UNIVERSITY

**東亜同文書院大学記念センター
オープン・リサーチ・センター事業**

〒441-8522 愛知県豊橋市町畑町1-1 TEL0532-47-4139 / FAX0532-47-4196

⑤ 10月16日(火) 2007年(平成19年) 第3種郵便物認可 東日新聞

寄稿

愛知大学公開講座は9月29日、愛大豊橋校舎で開かれた。

講師は、同文書院大

学最後の中国籍の先生で愛大設立以来の池上貞一名誉教授(88)。

呉羽分校の清原事務

処理を行った池上先生の「生の声」を聞かため、会場は先生の教え子や大学関係者でにぎわった。

この講演は、愛大の同文書院大学記念センター・オープンリサーチセンターとして貴重な記録とするためのビデオ撮影も行われた。

以下は池上先生の講演の要旨である。

◇ 「海を渡れなかった書院生たち」といって、何の意味もあつた。入学の第46期生は、上校となり、学生たちは100年の歴史を持つ同文書院大学の学

生は、全国津々浦々から、愛が副社長をしていたの許可で授業再開する

から集った優秀な学生で、富山県呉羽郡呉羽紡績も、1カ月後の11月15

日の上海に渡って勉に落ちつくことになる。

戦争中は呉羽航空機も不明の中で、経営財

源として、学徒動員の体制下であり、授業も閉校した。12月6日、

海周辺では米軍機の爆撃が激化し、東シナ海の作業に4時間働いた

しかし、昭和20年4月、会会長・近衛文麿公が

は制空権とも抑えられ、上海・長崎間の入学の最後の46期生は、

戦犯容疑者の名簿に

8月1日の富山市の大空襲で学生救護隊を組織して市民を援護、15

日、昭和20年4月に終戦、16日から休業となり、学生たちは

海へ渡ることができな

10月15日、主務官庁

そこで、同文書院の先(外務省吉田茂外相)

東亜同文書院大学呉羽分校願末

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

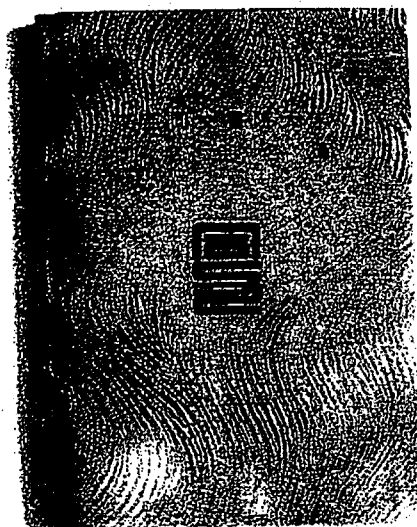
海を渡れなかった書院生たち



講演者の池上貞一氏



講演内容をビデオ撮影風景



ついに上海に行くことができなかった。 (愛知大学東亜同文書院センター長岡田新太郎・越知雄)

二つに格差を体験した池上先生の生の声

開通通告を受けた。同文書院46期生全員は

務を終えると同時に、

までですべての清原事務を終えると同時に、

同文書院から呉羽分校の

任は昭和21年2月10日

講師と浅野巧英庶務主

省からの内示を受けた

12月25日、池上貞一

上貞一氏

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

海を渡れなかった書院生たち

スポーツ・教育・文化

寄稿

愛知大学創設者、本間喜一先生を記念する歴史資料が、愛知大学東山同文書院大学記念センターの1階に新設される。

豊橋市は「近代豊橋の歴史を彩る人々」として21人を選んだ。その中で、学者・教育の分野では唯一人、本間喜一先生が選出された。「陸軍跡地に市内最初の大学である旧制愛知大学を創立し、創始期の大学の拡充に尽力した」とある。豊橋の町、軍部の町から、文化都市に誇りを持っていた。本間先生であるという。古くから、東は早稲田

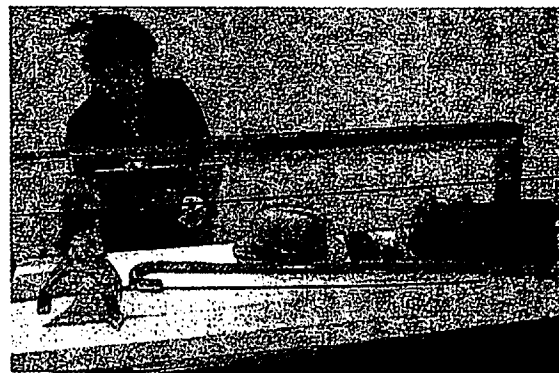
本間喜一記念展示室を新設

越知 専

大学創立者は、憲政党内閣で首相を務めた政治大家、大隈重信であり、慶応義塾の創立者は、社会・経済思想家で独立自尊と実学を鼓吹する脱亜論者、福澤諭吉であり、一方、西の同志社大学の創立者は、教育家・宗教家、でキリスト教主義の教育を掲げる新島襄と伝えられていたが、豊橋市制100周年以来、本間喜一氏の名前が浮き彫りにされるようになった。

明治24年生まれの本間先生は、大正4年、東京帝國大学法科を卒業後、院教授となり、副院長として上海へ。昭和19年には東山同文書院を創立し、豊橋市制100周年を機に再浮上したことから、「愛知大学創立者・本間喜一先生」を東山同文書院大学記念センター内に設けることになった。

そして昭和21年、海外から引き揚げて来た大学教職員とともに愛知大学創立者として、本間先生の名前が、副院長として上海へ。昭和19年には東山同文書院を創立し、豊橋市制100周年を機に再浮上したことから、「愛知大学創立者・本間喜一先生」を東山同文書院大学記念センター内に設けることになった。



「あいち」パネルが、開館から学問の世界へ。父として慈父として。のタイトルで、本間先生の経歴を時代別に紹介している。

今回展示するものは本間家所蔵の逸品であり、それぞれの時代において本間先生のエピソードにかかわる物証や、煙子、ステッキ、カバン、実印、メガネ、印籠(いんろう)などの愛用の品を展示する。また、明治時代初期の豊橋である三洲庵、豊初代長官や、一商および東大からの親友である田中耕太郎、代長官との関係を示す貴重な資料も展示する。

(愛知大学東山同文書院大学記念センター 寄稿)



東 茨 知 新 聞

〔3〕

2007年(平成19年)10月24日(水曜日)

第3 読解使用認可

中日大辞典 編集主幹 今泉潤太郎



去る9月20日午後1時半より、愛知大学東亜同文書院入学記念センター主催の講演会が同校で開催された。

「東亜同文書院大学員羽分校頭木一海を渡れなかつた書院生たち」と題して、池上貞一愛大名教授が講演した。池上教授は当時、呉羽分校で中国語を教え、同校の廃校に際して清算事務を担当された。

東亜同文書院は、20世紀初めの明治34年に東亜同文会会長の近衛篤磨が、中国・上海に設けられた学校である。日中の友好協力と通商交易の発展に役立つ人材の育成を目的としたビジネススクールである。中国語教育と中国に関する専門教育に

特徴があり、また卒業時に行われる調査大旅行は世界無比といつて過言ではない。まさに東亜同文書院の一大特徴であった。学生の大半は奨給費生として選抜された秀才揃いであり、戦前、帝大・陸士と並んで受験生の人気があった。

東亜同文書院大学について の貴重な証言

池上貞一・愛大名教授の講演会

で工員として働き、3時間は授業を受ける毎日で通し分校を開設して新入生を育てることとした。

当時、岡山県真羽村(現在の岡山市真羽町)にあった呉羽航空機(株)は、東亜同文書院の卒業生が副社長であったこともあり、同工場の建物を借りることになった。こうして、昭和20年7月25日、高尾分校校長学

近頃の市民が焼け死んだ。

長代理)ほか13名の教職(書院生は率先してその救援活動に参加した。劣國と新入生177名によつて東亜同文書院大学員分校が開設された。東亜同文書院の伝説である中国語教育は行われた。同校の中国語教科書『華語要綱』は、1枚1枚がガリ版で印刷された。学生は戦時下にあつて学生勤労隊員として一日4時間は呉羽航空機工場に上級生が下級生を指導する伝統的な形ではなかつた。

分校教授会は学校の存続を経営母体の東亜同文会に要望した結果、10月15日、授業が再開される。中国から引きつけて来た学生や教職員も加わり、総員約240名となった。しかし、学校経営の足元は危うい。11月15日をもって授業の打ち切りが決定された。大学側は学生の転入学に奔走し、文部省の了解もあり、東京帝大、京都帝大、東京商大などへ数所蔵されている。池上氏は呉羽分校の清算事務を担当して、郷土の豊橋市に戻り、その後愛知大学の創設に当たり、その後、愛知大学教授、法務学部長、図書館長などを歴任し、1989年定年退職、名誉教授として現在も活躍されている。



講演する池上愛大名教授
＝同大学で

《3》

2007年(平成19年)10月25日(木曜日)

愛大創設者・本間氏の功績を後世へ

記念館に「ナ」新設

越知 專



寄稿

（東は、大隈重信の早稲田、板垣退蔵の慶応義塾、西は、新島襄の同志社という認識が世間にある。）

しかし、中部を代表する愛知大学の創設者・本間喜一に対する認識は薄い。

本間氏は昭和15年、愛大の前身で中園・上海にある東亜同文書院大学へ渡った。昭和19年学長に就任し、敗戦にもない東亜同文書院大学を閉校して日本に帰る。

昭和21年、海外の大学

の教授・教諭と共に愛大を創設し、22年には最高裁判所初代事務総長になった。昭和34年、愛知大学長となり、昭和38年に愛大唯一一人の名譽學長となった。

「本間君一の生い立ち

本間氏は終生險となり
二一」では、想像に
日尚となつて愛大を支え
てきたが、世代交代の中
で本間氏の功績を知る市
民や教職員が少なくなつ
ていった。

絵など▽「学究時代コ
ナ」では、一高・東大、

◇ 一橋大学、検事、判事
 裁判官時代、商法小切手
 法の講義書（大正14年）
 や「判決文」▽「東亜同
 文書院時代コーナー」で
 は岡田氏の次男が書いた
 昭和15年頃の上海の庶民
 唯一人選ばれた。

これを機に、愛犬や豊橋市民から本間氏を見守り機運が高まって来た。そこで今回、愛知大学記念館の一階約30平方メートルに「愛知大学創立者・本間喜二コナナ」が設けられ、「最晩裁判所時代コナナ」の展示が行われる。

改葬」や箕作氏田中耕太郎氏官が本間事務総長の留任を懇願した記事などを展示。「愛知大学時代コーナー」では設立時の写真、資金集めで各市町村長や有識者への寄附依頼書（客員研究員）

「ナ」では最高裁判所初代長官や二代田中耕太郎長官との関係図や、本間氏の「事務総長発令」、最高「裁判所」に対する三淵長官の「忠告」書、本間氏の「最高裁の機構」など、事柄を網羅的に解説する。林則徐双掛軸、愛

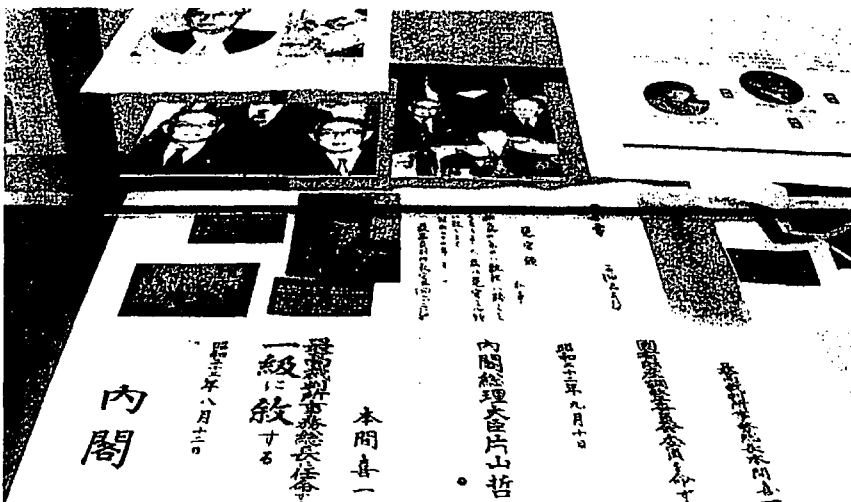


最終打ち合わせ
学長、殿岡辰子
インター母、山本

左から 越知専太郎（本間賢一氏長女）
明細局長



最終打ち合わせの（左から）越知専研究員、武田照信
学長、殿岡晟子（本間哲一氏母女）さん、藤田佳久セ
ンター長、山本明事務局長



③ 11月5日(月) 2007年(平成19年) 第3種郵便物認可 東日新聞

③ 10月19日(金) 2007年(平成19年) 第3種郵便物認可 東日新聞

スポーツ・教育・文化

寄稿

10月8日、三連南信サミット住民セッションの実行委員会が、愛知大学豊橋キャンパスで開かれた。

「住民セッション」に参加して

武井 義和

「住民セッション」は、住民団体による活動発表により、住民レベルの交流・連携のきっかけを探りながら、三連南信地域の魅力や可能性を再認識するとい



東亜同文書院センターで説明を受ける南信の皆さん

う趣旨であり、この会を午後1時に控え、最前部には、愛知大学創設者の本間喜一氏の経歴や人となりを知った。「本間さんのことが交互に座って、ポスト・ドクター」

寄稿

愛知大学東京事務所が、愛知大学豊橋キャンパスに移転、愛知大学の情報発信や同窓会活動が一段と活発になる。

東京・飯田3丁目南地区再生プロジェクト、官民複合施設「ヒル37」に隣接（近隣環境の整備）

情報発信などさらに活発に
愛大東京事務所が移転

愛知大学東京事務所は、200人余の待ったを待たずに、愛知大学の発展を期する「安井善安愛知大学同窓会会長は「東アジアに発信できる全開」

武田信昭学長は「愛知大学は、これに先だって、愛知大学センター書院研究



豊橋校舎にコ―ナ―完成

は大隈重信、樺沢諭吉、新島襄らに匹敵する人物。彼の素晴らしさを知って

る。 平日の午前9時半から午後4時半まで見学できる。問い合わせは愛大庶亜同文書院大学記念センタ―(0532・47・4139)へ。(竹下貴信)

愛大東亜同文書院大学
記念センター客員研究員の越知恵さんは、本間氏

本間氏の偉業を振り返る展示室＝愛知大学記念館で



00000000000000000000000000000000

1945(昭和20)年春と夏に短期間。その年のうちに知人知友を(再)り上げた本間一は、臨時政府事務局長に就任後の1950(昭和25)年、小宮隆次郎外相の退去を受けて知人知友20数人に就任した。さらに小宮隆次郎外相に神託した小、小宮井村の退去を受けて1955(昭和30)年に(再)りされたこととされた。1963(昭和38)年の学歴を調べて、本間一は(再)り知人知友が重大な誤りに陥ったことについての誤記は、展示室にある『愛犬物語』(『戦争遺言』)などのコーナーを参照したい。ここではそれ以外、事例に対する加藤の愛読として、『アイン・フーバー・ジャズティス(正義)に対する忠告である!』の信念のもと、読者として賢明とした批判を付したことを強調しておきたい。

すなわち本報は、愛大事件1952(昭和27)年では、「私が今辞めたら、愛大が悲劇になってしまう」として学はを辞することにはせず、学生を育てることに専念し、再登録し、21年に及んだ履科に一度も休まなかった。また、姫路商大事件(昭和38)年には、「大学がつぶれても学生を悔し出す」として授業の場面に立って、「天啓」地獄にも再び入り出す」といふ大学を愛したものである。そして、この愛大の学生の中に、愛大の学生が、

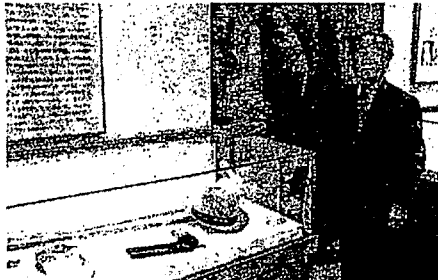


の愛護に、常に奔走し、卒業生・後援者から広く賛助を集める。同人が1987（昭和62）年の天寿を全うしたとき、愛知大学同窓会が営み始めた。

臣

愛大に創設者のコーナー開設

愛大記念館に開設された本間名誉学長の
コーナー（立っているのは越知さん）



愛知大学の創設者で名譽
学長の本間盛一さん（188
9～1989）の生い立
ちや愛用品などを紹介する
展示コーナーが、曲橋市町
畑町の同大学記念館に開設
された。

東京帝大を卒業後、検事、
弁護士として活躍。同大の
前身・東亜同文書院大学への
教授を務め、46年、臨橋市
に愛大を設立するのに尽力。
同大の第4代、4代学
長を務めた。

愛大設立のころは資産ゼロ

口からの吐露で、経済的に苦しいからと、さういふ言ひをして、
昔しかたにだすべくなく
名古屋大学との合併問題、
警官の構内立ち入りについて端
を發した重大事件などを系統
いた。

團長コーナーの開説にあたり、この向大倉院研究員の超然知事(二ノ切)は「本間學士長けられたいコーモアを失われず。年長者はかくし所の毛のない子どろ。あつてゐるやないな」といつても、何と云へばよいのかと思案を凝らすなかぎり、「よし」した體面が乗り切つてきた上野。

コーナーには、本間さん
愛用のステッキや鍬子、め
がねなどのほか、盛大創設
時の関係書類など約60点が
展示されている。

開場は土日、祝日を除く
毎日午前9時半～午後4時
半。入場無料。





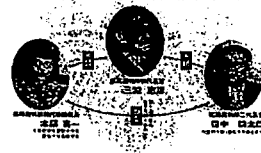
名誉学長「本間喜一の展示室」開設



環状発想山本ゼミの説明は興味津々の名古屋三好キャンパスで愛知大学史を学ぶ学生39人、バスを降り切って雲梯砂淵

最高裁判所事務総長時代

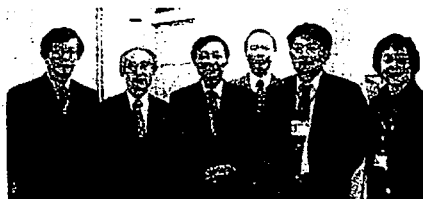
「『戦争』と『平和』の対比が、この小説の中心テーマである。『戦争』と『平和』の対比が、この小説の中心テーマである。『戦争』と『平和』の対比が、この小説の中心テーマである。」



戦後の法曹界の巨頭 3 人（三淵、田中、本間氏）の関係



愛知大学史について館知氏から話を聞く山本明彦代議士夫人・洋子さん

[illegible][illegible]

本間孝雄(総合研究所実行委員長)、
バー。(左から) 研究支援課近藤課
長、越知密田研究委員、山本研
究支援課主幹、武井ボストロクター、
佃安知大学講師、山口研究支援課
員

愛知大学
「未来へ輝く太陽」さらなる先へ

愛知大學

東亜同文書院大学記念センター
オープン・リサーチ・センター事業

◆展示資料室に音声ガイダンスシステムを設置しています。
〒441-8522 愛知県豊橋市町畑町1-1 TEL0532-47-4139 / FAX0532-47-4196

歴史の 証し



京都大学創設者 本間一三郎(1874-1947)の肖像

京都大学創設者 本間一三郎(1874-1947)の肖像。本間一三郎は、明治維新の精神を継承し、日本の近代化を推進した人物である。京都大学を創設し、その発展に尽力した。彼の肖像は、京都大学の歴史を象徴するものである。

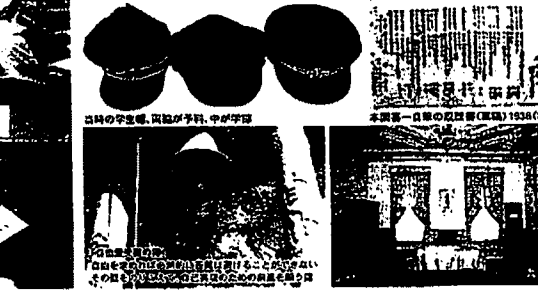
本間一三郎(1874-1947)の肖像。本間一三郎は、明治維新の精神を継承し、日本の近代化を推進した人物である。京都大学を創設し、その発展に尽力した。彼の肖像は、京都大学の歴史を象徴するものである。



昭和により発展した京都府立大学などの学舎を収容するためのキャンパス拡張と校舎1946(昭和21)年

内閣。本間一三郎は、明治維新の精神を継承し、日本の近代化を推進した人物である。京都大学を創設し、その発展に尽力した。彼の肖像は、京都大学の歴史を象徴するものである。

本間一三郎は、明治維新の精神を継承し、日本の近代化を推進した人物である。京都大学を創設し、その発展に尽力した。彼の肖像は、京都大学の歴史を象徴するものである。



2006年5月、京都大学東山町キャンパスと金沢センター・文部科学省の私立大学学術研究活性化推進事業(オープン・リサーチ・センター型奨励事業)に選定されました。

倉橋 健二

「とよしんば、ずっとこの道といっしょです。おれもこう思っています。」
豊橋信用金庫
電話 053-255-1111 12-0321 14
<http://www.toyohashi.co.jp>

おきよから愛され、信頼される金融機関をさがしよ
岡崎信用金庫
<http://www.okazaki.co.jp/>

京都府立大学記念センター
(本間一三郎先生の顕彰施設)完成を
心よりお祝い申し上げます。
がましん大OB会

2007年(平成19年)11月22日(木曜日)

東 愛 大 学 学 生 会

寄稿

豊橋市教育委員会と愛知大学主催の2007年度豊橋市民大学トラム・愛知大学連携講座「近代史の中の東亜同文書院と愛知大学」の最終講義が、17日愛知大学豊橋校舎で開かれた。

近代史の中の東亜同文書院と愛知大学

最終講義を終えて

越知 専

市民トラムは豊橋技術科学大学、豊橋創造大学、愛知大学が連携して、それぞれの大学の特徴を生かしたテーマで、豊橋市民の文化向上を図るものであり、1997年から始めている。毎年受講者を募り、50人から多い時は講師に選定して行った。

初回、10月6日は藤田佳久センター長(文学部)を講師に選定して行った。

月27日は武井義和愛知大学「東亜同文書院が、10月10日は石田中先生「東亜同文書院のキリスト教」と題し、東亜同文書院内のキリスト教活動を紹介し、新たな学校像を提示し注目を集めた。

最終回、17日は愛知大学企画広瀬水野裕子「大島教授の追って説明した。質疑応答の後、大島教授と重なって全部出席で、研究、運営委員会」

には100人程度の参加者があり、今までに1125人が受講した。

特に今回は、愛知大学の前身である東亜同文書院との関係、それに携わった人物論を愛知大学東亜同文書院大学記念センターのベテラン教授と新進鋭の若手の学者

の司会で始まり、大島は「大学史には光と影がある。光だけを捉える」と「ええとこだけ」の物語になってしまふ。影の部分を目撃し、いか

きなかったのが残念だった。(50歳代・女性)など25名の方々が回答を寄せてくれた。

10月13日は黒崎毅センター「愛知大学名譽教授」を「愛知大学創立50周年誌」の編集委員を務められ、愛知大学史についてにそれを解説するかによって立派な大学史になる」と大学史に対する所見を語った。司会者からお礼の言葉、受講生から

「愛知大学創立者」本間喜一先生等も完成「東亜同文書院から愛知大学の歩み」をDVDと音声ガイドシステムで紹介できるようになった。

秋には「愛知大学創立者」本間喜一先生等も完成「東亜同文書院から愛知大学の歩み」をDVDと音声ガイドシステムで紹介できるようになった。

秋には「愛知大学創立者」本間喜一先生等も完成「東亜同文書院から愛知大学の歩み」をDVDと音声ガイドシステムで紹介できるようになった。



講義中の大島隆雄経済学博士

最終回、17日は愛知大学企画広瀬水野裕子

大島教授の追って説明した。質疑応答の後、大島教授と重なって全部出席で、研究、運営委員会」

大島教授の追って説明した。質疑応答の後、大島教授と重なって全部出席で、研究、運営委員会」





寄稿

いま全国に国公立・私立大学が156校あり、短大は434校もある。人口10万人以上の都市が248市、ひとつのまちに数校の大学が存在することになる。

「愛知大学の原点」を知る愛大生

越知 専

自分の強固な意志や希望により、なかには偏見によって大学が決められる「不本意な大学」もあると云う。そこで大学のアイデンティティ確認のための方策がいろいろとあられ出ている。昨年は名古屋一好、校舎

を知らずには、大学全体の歴史を知るのが近道である」と云う。

まず愛知大学記念館での田隆一、座談会や武井義和、ホストドクターから、東亜同文書院大学や愛知大学60年の歴史を物証を通じて解説を受け、講義「自由愛知の源」、愛知大学創立以来の「中部地方

で、本年春から豊橋校舎で共通教育科目として「大学史」の講座が開講された。「諸君が入学した大学はどのようなところだろうか。大学の意味やその社会的存在意義」をその社会的存在意義、1台で豊橋へやって来て、また人間味あふれる



愛知大学応援団58代夏目靖志団長からエールを受ける名古屋三好キャンパスの学生たち



田隆一郎講師から大学史の講義を聞く名古屋三好キャンパスの学生たち

「歴史研究所」や「総合郷土研究所」を昇格した。さらに伝統ある愛知大学応援団58代夏目靖志団長から愛知大学校歌やエールを受け、39人の学生は「愛知」の愛知大研究員・運営委員

中日新聞 2007年(平成19年)11月28日(水曜日)

2007年(平成19年)11月28日(水曜日)

人柄映す手紙や写真

愛大名誉学長 本間喜一氏の遺品展示

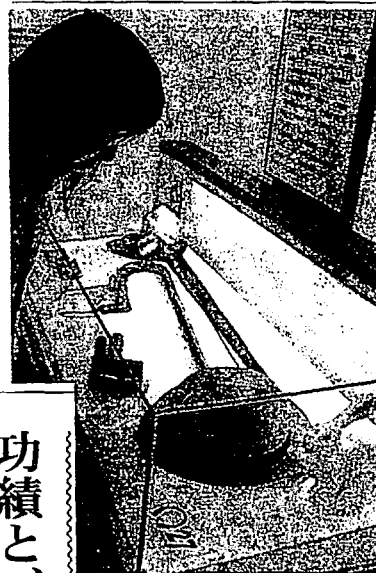
豊橋校舎

愛知大名誉学長の本間喜一氏(一九〇一年〜一九九一年)の遺品約五十点を集めた展示室が、豊橋校舎の愛大豊橋校舎の大学記念会館に設置された。

本間氏は愛大の前身で、戦前、中岡・上海にあった東亜同文書院大学の学長となり、終戦後は愛知大学を約十年間務めた後、名古屋学長となった。展示品は遺族から譲り受けた物が多く、愛用の

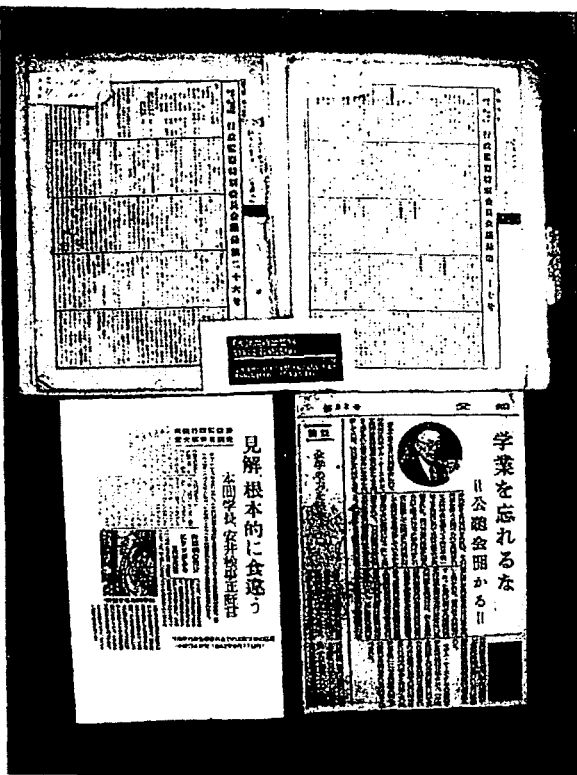
茶 南山園

六十年に「ヘイタイサン」一人テロにコロサレタと当時の情勢を記した日本の長女あての手紙や、学生との集まりもあり、本間氏の人柄がしのばれる。



センターの越知専さん(左)は「あまり知られていない本間氏の功績や人柄を知ってほしい」と来場を呼び掛けている。平日に開館しており、入場無料。

(安田功)



13 11月6日(火) 2007年(平成19年) 東日新聞

功績と、その歩み知って

大 本間喜一学長展示室を公開

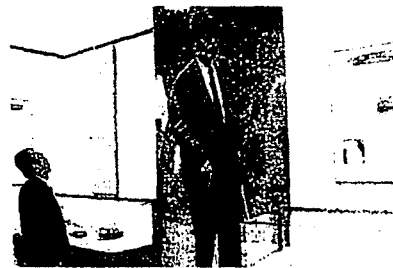
愛知大学(武田信忠学長)は、豊橋校舎旧本館の記念館に本間喜一学長の展示室を完成、11月から公開した。記念館には、愛知東亜同文書院大学記念センターが入っており、同文書院時代から100年の歴史を紹介する展示室が整備されている。



拡大した左の日本学長の写真が飾られた展示室

展示室には、山崎昭とに飾られている。その山崎昭は、愛用のステッキを手にする高嶋、ステッキ、めがね、判事時代、日中戦争が始まった中国で大学に昇格した同文書院の学部開設実現などを当時の資料で振り返る展示になっている。

本間学長の功績と歩み知って



めつ殿園屋氏から提供された。

展示品は、酒田時代に英国とのアヘン戦争の引き金になったアヘン押収を機に、園をすうつとした政治家・林則徐直筆の謝詞がガラスケースに収められている。愛国精神と正義を貫いた林則徐を敬愛していた。

大正4年、東京大学法科卒で検事、判事務め、47(昭和22)年から最高裁判所初代事務局長を3年間務めている。こうして、本間氏の足跡や検事判事時代、日中戦争が始まった中国で大学に昇格した同文書院の学部開設実現などを当時の資料で振り返る展示になっている。

同文書院大学記念センター長の藤田佳久教授は「本間先生の功績とその歩みを集約的に示すための地域の皆さまにお伝えしよう」と開設した」と同展示室のあいさつ文で述べている。

オーストラリアの文化遺産（世界遺産）

原松昭明 (Tokyo豊能町) プレス関係

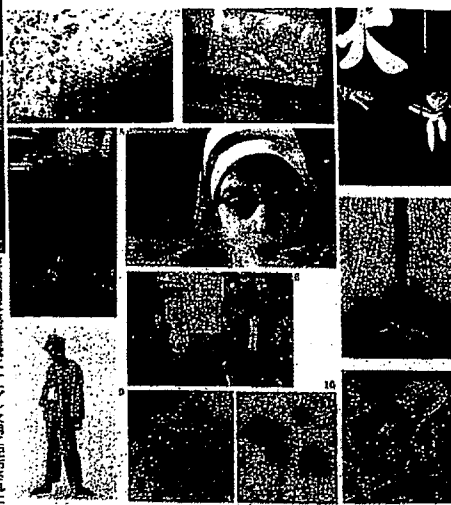


愛大・県美・市美
をベースに希望

翌大O.B.一戦後日本を代表するプロ野球、東京競馬場北の芝生を遊覧し「トクO.B.忠告」が16日午後、東京神宮球場で開かれた。

東京を平心正気、神奈川を一面一面で撮影された最新に、これまでの驚異的な作品もたまたまで、東京の芝生を遊覧する作品、またたまたま企画画となっている、そのほか松林から「相模」についてあるが、東京へ来ないか」と面を語り、語り、上京して個展のオープニングを飾り、「上」に出張した。

「これは私の故郷に芝生を遊覧したようなもの」

[illegible]

内科・消化器科
つつしが丘クリニック
 要領市佐藤1丁目14 TEL (0532) 66-2103

地図や切手、写真並ぶ

愛大車道校舎で天津資料展

東亜同文書院大学
記念センター

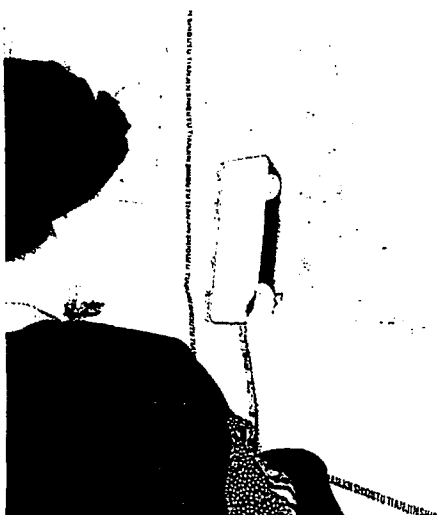
愛知大学東岡文書院 争中に同国天津市に居留
大学記念センター(藤田 した関係者が集まり、
佳久センター長は、こ 同鑑賞会の近藤代表が案
のほろ古屋の車道校舎 めた当時の天津の地図
で「天津資料展」と題 絵はがき、路面電車路線
演説を開催した。
愛大の前で、中国上 図、切手、貨幣、証明書
海に終戦まであった東亜 や写真など1000点近
同文書院大学と岡田の歴 資料に見入った。
史を模範、研究する同セ 自分が通学で乗った路
ンターが、初めて外部団 面電車、生活した租界の
体である天津資料鑑賞会 居留地の場所、懐かしい
(近藤久義代表)との協 写真や証明書を指差しな
賛事業で開催した。 がる、平和で安全だった
会場の同校舎には、戦 時代の租界地での生活を
思い出していた。

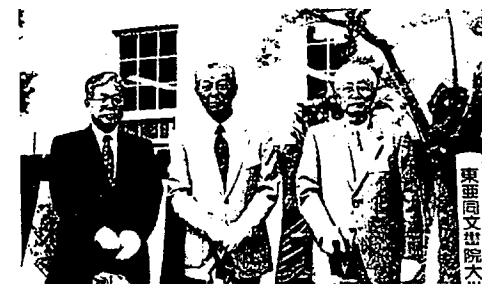
講演は、同センターの
ポストドクター・武井 和氏が「近代中国の租界
地における日本人社会・
上海との比較」のテーマ
で話した。租界地は、1
939年に天津で1万5
575人、上海では、5
万1903人の人口だっ
た。
資料を提供した近藤代
表は75歳。「昔日天津、
今日天津」「天津を愛し
百年、そして子々孫々」
などの言葉を著してい

る。1932(昭和7)
年に天津で生まれた。
藤田センター長は、初
めての外部団体との協賛
事業開催で「学生たちも
なった」と評価した。



懐かしそうに天津の地図や写真に見入る参加者





⑤ 12月18日(火) 東日新聞

寄稿

世界に向け「光」を発信

東亜同文書院を前身とする愛知大学

「可憐な学生時代に訪れた日本」を、それまでの東洋文庫の「東洋文庫」から「東亜同文書院」へと改題した。その意図は、東洋文庫の「東洋」を「東亜」に広げ、アジアの文化を広く紹介することにある。東亜同文書院は、その使命を遂げるために、世界に向けて「光」を発信しようとしている。



本間第一愛知大学名誉学長御前式での近藤通隆氏



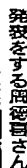
研究発表をする大庭昭雄博士

「東亜同文書院」は、その使命を遂げるために、世界に向けて「光」を発信しようとしている。その「光」は、東洋の文化を広く紹介することにある。東亜同文書院は、その使命を遂げるために、世界に向けて「光」を発信しようとしている。



寄稿

中国歴史学者から見た東亜同文書院



中国におけ
東亞同文書院研究
周徳喜

「と答へた。西華がそこにはあつた。西華同文書院研究は日中たけなや欧米も含めたよりスーパールの大きな視点から検討するべきであり、現状の研究にはその端が欠けているのではない」と指摘して、今後の研究に生かして欲しい」と答へた。

（愛大東亜同文書院大学

また、「同文書院研究 記念センター書院研究」

本間喜一先生の人柄偲ぶ

東亜同文書院や本間喜一 今から55年前、「愛知
氏はあまり知られていな 大学事件」が起きた。

い。
ちよつとこの時、愛知

ある新聞の某支局長が、
その部下の記者に、「記
事がなかったら愛犬へ行
き」
と、ニュースや記事
の料金を募った。

寄稿

がいっぱいあると言われ
て愛知大学へY記者が筆
者を訪ねて来たことがあ
る。

ではない。神桃色とも
えない学校である。私は
そう考えております」と、

第13回国会衆議院行政監察

その愛知大学東華同文 寮特別委員会(昭和27年
唐阮記念センターのスタッ 6月12日)で本間氏は述
ブ全員が集まって、忘年 べている。

会と銘打って本間登一先生を恩(しの)ぶ会を開いた。豊橋駅弁の老舗「壘屋」の「いなりずし」

について、各市町村はど
ういうふうに応じました

言っております」。

そんな折、壺屋井当部

か」に対し、本間証人は「よく事情は分かりませ
約束?の寄付もホゴにせ
んが、去年の秋、横田君
ず果たしてくれた。

(忍、元龜橋市長)から
本間喜一氏は、気骨と
の語で、どうも学校が赤
いものだから金の集まり
念を忘れず、それ以来豊
橋駅の「遊屋のいなりず
がよくない」ということを

に「ツボヤの弁当はうまい、うまい」と言っていたようだ。

そんなエピソードを語っている私たちは、愛知大学創立のご苦労と、本間氏（東亜岡文齋院大学元学長・最高裁判所初代事務総長・愛知大学名誉学長）を偲びながらこの1年をまとめた。

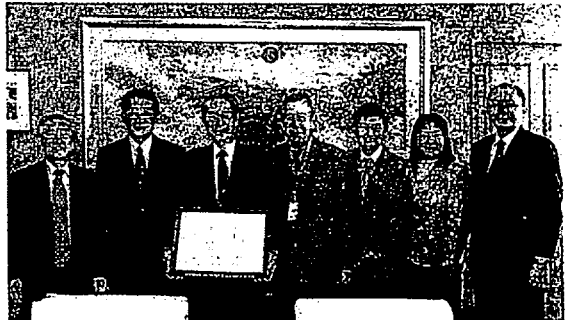
現在3つのキャンパスを持つまでに発展した愛大は「いなり弁当の垂簾」の「救いの手」によって本間喜一先生は、元気づけられたとも思われる。

（東亜同文書院大学記念センター）客員研究員・越知卓）



本間喜一先生を偲びつつ齋屋の弁当を食べる
センターのスタッフ





愛大から表彰を受けた栄まちづくりを考える会の
石垣会長ら

越知傳

強会が、1月19日に豊橋市栄区市役所で開催され、地元南栄町の郷土史家・水口源彦氏（83）が講師の生徒を引率して、愛大の記念館や愛大東亜田文館記念センターについてもお話をされている。

として招かれた。

水口氏は「橋大学を卒業」→「移行し」、その中心である愛大についての説明も含めて、私と掛け合っている例は20数人とBであるため、愛大の舞台いしなから講演をしたが、会が主催する「ま

日の勉強会に来てほしいの7時からというのでとの連絡があつた。特に辞退し上げた。

かえ歴史と自然の道」
「地元愛知大学をもっと
良く知ろう」などとの
会には、市広報や栄地区
の同様な呼び掛けの
100人から150人の
市民が参加されている。
1昨年、豊橋市制10
0周年に合わせて、「栄
校区ふ・れ・あ・いマッ
プ」1万2000枚を希
望者に配布、愛大を中
心にした「文教のまち」
「国指定の文化財や史跡
を見て歩く」の2つのウ
ォーキングコース紹介と
愛大前など4カ所にて「さ
かえの歴史と自然の道」
の新聞紙大の看板を設置
した。

これに対し、愛大は
「平成16年以来、地区市
民の発意に基く自然と
文化と歴史が共生する開
かれた愛知大学が地域と
一体になったパブリッ
ク・スペースを創作した
ということ、平成19年
1月に同会に「感謝状」
を贈呈している。
もともと愛大は、地域
に貢献することを創立の
精神のひとつにしており、
開かれた大学として市民
公開講座を開学以来続
け、最近はおオープンカ
レッジで広く市民の生涯学
習意欲に応えている。
ところが最近の新聞記
事から、愛大は名古屋位

局に退出と誤解があり、
その移転計画から、「わ
が校様は、どの様な
影響があるか、注目すべ
きことのひとつである」
とこの勉強会のレジュ
メに書かれていた。
愛大東亜同文書院記念
センターでは、こうした
愛大地元の事情も含め、
地域の人たちとの深いか
かわりを継続し、共生共
栄を図り、地域文化に貢
献するために「友の会」
を計画し、3月には第1
回の結成準備会を開くこ
とを予定している。

（愛知大学東亜同文書
院大学記念センター客員
研究員）

「さかえ歴史と自然の道」

榮校区は昭和27（1952）年、榮小学校の開校に伴い、福岡校区から分かれて誕生しました。戦前この地域には陸軍の駐屯地や演習場があり、その影響で保育園から大学まである市内随一の文教・住宅地区として発展してきました。

「とかえ歴史と自然の道」は、市政施行100周年記念事業」と

あのまち
このまち

業のひとつで、駅など4か所の案内板の設置と情報満載のウォーキングマップを作成しました。『さかえ歴史と自然の道（ウォーキングコース）』はかけがえない歴史建造物や自然を地域の共有財産として保存するとともに、より良いまちづくりに役立っています。

さかえ歴史と自然の道を歩こう
▼とき 5月12日(土)午前9時(出発)
▼正午(少雨決行)▼集合
校校区市民館(北山町字東舗)▼
コース ①愛知大学(記念館・公
館)→諏訪神社→小松神社・北山
神社コース②早咲きの花碑→から
くり時計→進雄神社→高師緑地の
いずれか▼その他 ウォーキング
マッププレゼント▼問合先 栄校
区まちづくりを考える会(☎45-
2113石垣)

